

学科名	電気通信工学科							
科目名	電子情報工学演習							
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	2年次後期			
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)／必修科目(電気エネルギーコース)／必修科目(情報システムコース)							
担当者	江崎 秀、原谷直実、喜屋武 毅、白土 浩							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・技術マニュアルを理解し、自主的に作業することができる(A4) ・入出力装置を持つ組込みシステムのプログラミング手法に習熟する(B5,B7) ・ハードウェア制御とソフトウェア制御によるインターフェース技法を理解できる(B5,B7) ・様々な実例から、組込みシステムの基盤技術を説明することができる(B6,B7) ・習得した知識や技術を発展させ、自ら設定した課題を資料にして提示することができる(A4,C6) 							
日程と内容	9/18 第1回 ガイダンス 10/2 第2回 第1テーマ1回目 10/9 第3回 第1テーマ2回目 10/16 第4回 第1テーマ3回目 10/23 第5回 第1テーマ4回目 10/30 第6回 第2テーマ1回目 11/6 第7回 第2テーマ2回目 11/13 第8回 第2テーマ3回目 11/20 第9回 第2テーマ4回目 11/27 第10回 第3テーマ1回目 12/4 第11回 第3テーマ2回目 12/11 第12回 第3テーマ3回目 12/18 第13回 第3テーマ4回目 1/15 第14回 スライド作成 1/22 第15回 スライド評価							
成績評価基準	定期試験	0%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	90%	プレゼンテーション	10%	課題	0%		0%
	演習	0%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・技術マニュアルを理解し、自主的に作業することができる: ほぼ到達できた ・入出力装置を持つ組込みシステムのプログラミング手法に習熟する: 到達できた ・ハードウェア制御とソフトウェア制御によるインターフェース技法を理解できる: 到達できた ・様々な実例から、組込みシステムの基盤技術を説明することができる: 到達できた ・習得した知識や技術を発展させ、自ら設定した課題を資料にして提示することができる: 到達できたが不十分だった 							
反省点	本科目は実習形式の科目である。そのため最低限守らなければならないのが出席と課題提出である。例年のように欠席や課題未提出は見受けられたが、途中であきらめて放棄する受講生はごくわずかだった。そのため実質的な合格率は95%と高い値が得られた。一方で学期中に退学する学生が多かった。これはこの科目内で対処できることではないので、学科で取り組む重要課題である。							
来年度の計画	今年度は概ねスムーズに運営できたので、来年度もほぼ同じ形式で良いと思う。独自アンケートの結果も良好だった。「習得した知識や技術を発展させ、自ら設定した課題を資料にして提示することができる」という到達目標に対する授業内容が十分とは言えなかったので、反省会と打ち合わせ会議で検討する。							
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価の平均は8.5点だった。別途、独自アンケートを実施した。テーマ数、内容、教員やTAの指導法のいずれも、現状どおりが良いという回答が大半だった。レポート作成の負担を訴える記述が数件あったので、ガイダンスでレポートの意義をより詳しく説明しておく必要があると思われる。							
履修登録者数	71名	定期試験 受験者数	61名	合格者数	58名	合格率	95%	